

**日本科学者会議
福岡支部ニュース
No. 291
2025 年 4 月 21 日発行**

●日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15

Tel: (03) 3812-1472

●福岡支部事務局

〒813-0021 福岡市東区みどりが丘 3-11-5

小早川義尚 気付け

<E-mail> fukuoka@jsa-fukuoka.sakura.ne.jp

<郵便振替> 福岡 01790-1-5576

<支部 HP> <http://jsa-fukuoka.sakura.ne.jp/index.html>

目 次	ページ
1 日本科学者会議(JSA)福岡支部 第 55 回定期大会 (5/11) の案内	1
2 日本科学者会議(JSA)福岡支部 公開講演会 (5/11) の案内 「「反省するドイツ」から「右傾化するドイツ」へ? － AfD 台頭の歴史的位相をめぐって －」	2
3 第 7 次エネルギー基本計画に対する批判的声明	3
4 福岡核問題研究会例会 (2/22, 3/22) の報告 「第 7 次エネルギー基本計画 (案) について」 「ネットワーカーの人間関係の可能性」	4
5 北九州分会の例会 (3/22) の報告 「AI 化社会を如何に生きるべきか 2」	5
6 例会等の案内	7
6-1 福岡核問題研究会例会 (4/26) 「核・原子力情勢の俯瞰的分析—暗闇の中の光明を求めて—」	
6-2 『日本の科学者』オンライン読書会 (5/12) 「5 月号<特集>環境型地域社会の構築に向けた取り組み」	
6-3 『日本の科学者』オンライン読書会 (6/9) 「6 月号<特集>原発のない社会づくりのための検証と展望」	

1. 日本科学者会議(JSA)福岡支部 第 55 回定期大会の案内

日本科学者会議福岡支部第 55 回定期大会を下記の通り開催します。定期大会終了後は、例年通り講演会を開催します。会員の皆様のご出席・参加をお願いします。
欠席される場合は下の委任状 (e-mail での送付可) を提出してください。なお、例年通り、委任状を出されずに欠席された場合は、議決権を議長に委任したものと見なします。大会資料

はこの支部ニュースに同封して送付します。議案等に対する意見提案等がある場合には事前に支部事務局までメール・手紙等で提出してください。

記

日時： 2025年5月11日（日）13:30～14:45

様式： Zoomによるオンラインミーティングと文書による討議

(Zoom オンライン参加情報)

<https://us04web.zoom.us/j/8151516469?pwd=N1dydmMxTk85eVRkenNxUFhJUE1YUT09>

ミーティングID : 815 151 6469

パスワード : 3KsYt4

議 事： 2025年度支部活動報告
2025年度支部会計報告
2025年度支部活動計画
2025年度支部予算案
2025年度支部幹事の選出
日本科学者会議第56回定期大会代議員の選出

----- 委 任 状 -----

私，日本科学者会議福岡支部会員（ ）は，第55回定期大会における議決権を（ ）に委任します。

2025年 月 日

(代理人の記入がない場合は議長委任となります。)

2. 日本科学者会議(JSA)福岡支部 公開講演会の案内

日時： 5月11日(日) 15:00～17:00 (支部定期大会終了後)

開催様式： Zoomを利用したオンライン開催 (アクセス情報は支部定期大会と同じ)

演題： 「反省するドイツ」から「右傾化するドイツ」へ？

－ AfD 台頭の歴史的位相をめぐって －

講師： 今井 宏昌 氏 (九州大学・人文科学府、准教授)

【講演要旨】

周知のように、ヨーロッパでは2012年の経済危機や2015年の難民危機を契機として、欧州連合(EU)に対する懐疑的姿勢を示し、移民排斥を訴える右翼ポピュリズムが台頭した。

1990年の再統一後、EUの中核を担ってきたドイツも例外ではなく、反EU・反移民を掲げる「ドイツのための選択肢(Alternative für Deutschland: AfD)」が2010年代後半から勢力を伸ばし、2024年6月9日の欧州議会選挙では第二党、9月1日のテューリンゲン州議会選挙では第一党へと躍進した。2025年2月23日に開催される連邦議会選挙においても、多くの議席を

獲得することが予想されている。

このような AfD の台頭を「ナチズムの再来」ではないかとする見方もある。しかし、歴史過程を無視した安易な同一視は危険である。本講演では、ドイツ現代史の流れやポスト冷戦期における右翼思想の変化を踏まえながら、AfD 台頭の歴史的位相について考察してみたい。

3. 第7次エネルギー基本計画に対する批判的声明

2025 年 2 月 18 日閣議決定された第 7 次エネルギー基本計画に対して福岡核問題研究委員会と日本科学者会議福岡支部幹事会は共同で批判的声明を発出した。声明文は以下の通り。

2025 年 3 月 3 日

第 7 次エネルギー基本計画は問題だらけで実効性は疑問

福岡核問題研究会／日本科学者会議福岡支部幹事会

政府は、中長期のエネルギー政策の方向性を示す第 7 次エネルギー基本計画（エネ基）を閣議決定した。このエネ基は、福島原発事故の教訓を忘れ、持続可能性など総合的観点に欠けたものである。一言でいえば原子力、火力に偏重した、問題の多い基本計画であると言わざるをえない。

第一の問題は、省エネルギー（省エネ）についての重要性は指摘しているものの、省エネを進める具体的な推進策がないことである。省エネによるエネルギー需要削減は、2050 年カーボンニュートラルを実現する上で最も重要なものである。技術革新や産業部門の効率化のほかにも国民一人ひとりの意識改革が必要である。

第二の問題は、再生可能エネルギー（再エネ）の導入目標があまりにも低いということである。エネ基によれば、2040 年度の再エネの目標比率は 40～50%であるという。前回の 2030 年度の再エネの目標比率は 36～38%であったので、10 年間の再エネ導入比率は 4～12%だけの増加となる。余りにも低い目標ではないか。さらに脱炭素がうまくいかない場合は、2040 年度の再エネの目標比率を 35%にするという。その場合は、2040 年度の火力の比率が 45%となり、2030 年の比率（41%）より 4%増加することになる。脱炭素化への逆行である。われわれは、日本の地理的条件や技術力を考えれば、より高い目標を設定し、積極的に導入を進めることができると考える。

第三の問題は、福島第一原発事故以来これまで「可能な限り依存度を低減する」と言っていた原発を「重要なベースロード電源」と位置づけ「最大限活用する」としていることである。福島第一原発事故の教訓を忘れてしまったのかと言いたい。原発には過酷事故が確率は低くても起きることを忘れてはならない。昨年 1 月の能登地震で原発の過酷事故が起きなかったのは、珠洲原発計画が地元住民らの根強い反対運動により 2003 年 12 月に凍結されたからである。凍結されていなければ、福島事故と同じような過酷事故がありえた。原発には過酷事故のリスクだけでなく、稼働すれば必ず出てくる放射性廃棄物の後処理を未来の人類に丸投げするものである。また、原発への投資は、同額を太陽光など再エネや省エネに投資した場合と比べ温室効果ガス削減量は数分の 1 でしかないことが分かっている。

第四の問題は、エネ基では水素・アンモニアや CCS（二酸化炭素回収・貯蔵）技術を「脱炭素化

の鍵となる選択肢」として位置づけ、その導入を推進する方針が示されている。水素・アンモニアは将来のエネルギー源として期待されるが、その製造コストや輸送コスト、安全性、資源調達の問題など多くの課題がある。また、CCS 技術については、その実現可能性やコスト、CO₂ 貯蔵の安全性、環境への影響など、様々な課題を解決する必要がある。水素・アンモニアの導入には慎重な検討を行い、CCS 技術の開発には慎重な姿勢を保つことが必要であろう。

第五の問題は、計画案の策定過程において国民の意見や参加が十分に反映されていないことである。エネルギー政策は、国民生活に大きな影響を与えるものであり、その決定プロセスには、より多くの国民が参加できるような仕組みづくりが求められる。確かに、今回のエネ基案に対してパブリックコメントが募集され、4 万を超える意見が寄せられた。その中で「安全性に問題があり原発利用を推進すべきではない」（176）という複数の意見に対して「エネルギー基本計画（案）に、原子力の安全性やバックエンドの進捗に関する懸念の声があることを真摯に受け止める必要がある旨を明記いたしました」という回答のみで済ませるのは、あまりにも安易すぎる。エネルギー政策は社会全体で議論し、合意形成を図ることが重要であると考えます。

第六の問題は、エネ基には国際協力に関する記述が少ないことである。地球温暖化問題は国際社会全体で取り組むべき課題であり、日本が積極的に国際協力を行うことが求められる。気候変動問題の解決には、日本は先進国として責任を果たすとともに、発展途上国への技術支援や資金援助などの貢献が求められるが、そのような記述がエネ基の中にはない。

4. 福岡核問題研究会例会(2/22, 3/22)の報告

この間に以下の研究会 2 月例会と 3 月例会が開かれた。

＜福岡核問題研究会 2 月例会＞

日時：2 月 22 日（土）10:00～12:00

話題：「第 7 次エネルギー基本計画（案）について」

話題提供：生成 AI & 三好永作

＜福岡核問題研究会 3 月例会＞

日時：3 月 22 日（土）10:00～12:00

話題：「ネットワーカーの人間関係の可能性」

話題提供：溝俣洋一氏

2 月例会は、生成 AI を利用して第 7 次エネルギー基本計画（案）についてまとめたものを材料にして、第 7 次エネルギー基本計画（案）に対する批判的な声明文を検討した。本支部ニュースの 2 に掲載された声明文は 2 月例会で検討された声明文案を基にして、支部幹事会で補足改訂されたものである。

まず、三好はいくつかの生成 AI に対して、「あなたは地球環境学の専門家です。専門家として、

第7次エネルギー基本計画（案）を3000字程度に批判的に論じてください」という指示（プロンプト）を発した。生成AI（GoogleのGemini）からの応答は項目だけを列挙すれば以下のようなものであった。

1. 脱炭素化に向けた具体策の欠如
2. 再生可能エネルギーの導入目標の低さ
3. 原子力発電への依存
4. 水素・アンモニアへの過度な期待
5. CCS技術への過度な依存
6. エネルギー政策決定プロセスへの国民参加の欠如
7. 国際協力の欠如

「3. 原子力発電への依存」の項目すべてを書き下せば以下のようになる。

「計画案では、原子力発電を「重要なベースロード電源」と位置付け、その活用を推進する方針が示されているが、福島第一原子力発電所事故の教訓や核廃棄物の処理問題、安全性の確保など、原子力発電には多くの課題が残されている。地球環境学の観点からは、原子力発電はリスクの高いエネルギー源であり、その依存度を下げるためには、再生可能エネルギーの導入拡大や、省エネルギーの徹底などほかの手段を追求する必要がある」

結論として、「地球環境学の専門家から見て、基本計画（案）は、いくつかの点において批判的な考察が必要である。特に、脱炭素化に向けた具体策の欠如、再生可能エネルギーの導入目標の低さ、原子力発電への依存、水素・アンモニアの過度な期待、CCS技術への過度な依存、エネルギー政策決定プロセスへの国民参加の欠如、国際協力の欠如などは、早急に改善されるべき課題である。日本が持続可能な社会を実現するためには、より長期的な視点に立ったエネルギー政策を策定する必要がある。再生可能エネルギーの主力電源化を加速化し、省エネルギーを徹底し、原子力発電からの段階的な脱却を目指し、水素・アンモニアの導入には慎重な検討を行い、CCS技術の開発には慎重な姿勢を保ち、エネルギー政策決定プロセスへの国民参加を促進し、国際協力を強化する必要がある」と相当まともな批判をしている。

言うまでもない事であるが、第7次エネルギー基本計画に対する声明文（案）では、生成AIの文章は使わず、オリジナルな文章を書き下している。そのようにして作成されたものが、声明文を作成する際の原案となったのである。

3月例会では、溝俣洋一さんに「ネットワーカーの人間関係の可能性」という話題を提供していただいた。溝俣さんは、” ChatGPT” などのネット上に公開されている生成AIを使う段階に停まらず、ご自分のパソコン上にAMD（Advanced Micro Devices）社のGPUをのせて画像生成AI “Stable Diffusion”などを走らせて画像データを得ているという。

ネットワーカー（ネットを使う私たちを指す）は、生成AIのネット上での登場により、ネット上の虚偽との戦いが益々厳しい状況に直面していると指摘して、①ネットワーカーについて述べ、

②ご自身のネットワーカーとしての経験を述べ、③生成 AI の出現によってネットワーカーが直面する脅威の特徴を述べ、④ネットワーカーが取るべき対策を提案し、⑤今後のネットワーカー関係の可能性について論じられた。

(報告者：三好永作)

5. JSA 北九州分会例会の報告

JSA 北九州分会の例会が、今回初めてオンライン形式で、3 月 22 日に開かれた。参加者数は計 10 名を数えて、そのうち本例会に初めて参加の方は半数であった。以下、話題提供者自身が例会の内容を報告する。

＜JSA 北九州分会の例会＞

日時：2025 年 3 月 22 日（土）13:30~15:30

会議形式：オンライン（ZOOM）

話題提供者：西垣 敏

題目：AI 化社会を如何に生きるべきか 2

概要：今から 2 年前の JSA 福岡支部講演会で講師（私）は、AI 化社会をどう生きるか、のテーマを取り上げて問題点、危険性等を論じた。そのときはチャット GPT なる生成 AI が世に出て間もない時期で、主要大学や学術誌等はこれに十分な警戒心をもってあたると表明していた。しかしその後の僅か 2 年間に状況は急激な変化を見せ、人間活動の多くの分野が AI 化の大波を被らざるを得ない事態になった。

講師は序論として、AI なる一特定技術に、かくも大きな労力と巨大な資金がかけられる、という異常は、その技術によって引き起こされるかも知れない大転換の主要ターゲットがまさに経済と戦争に向けられたものだからではないか、と述べ、従ってそれが人間を歪めることにつながるので、今回の講演の後半では教育分野における AI 化の問題に特別注意を払ってみたい、と検討課題を挙げた。

AI は、生成系も含めて、要するに「予測」マシンである。観測データを入力とし、それを変換して、出力データを得るシステムを、膨大な数の未知パラメタを含む人工ニューラルネットワークで組む。未知パラメタの最適化は、大量の訓練データを用いた機械学習として行われる。ここで訓練データは画像、動画、質問文、音楽などで、例えばハイビジョン・カラー画像一枚のデータは約 600 万次元のベクトルとして表わされる。いわゆる生成 AI の一種で、入力された文字データから画像を出力してみせるマシンにおいては、そういう超高次元空間の中のどこかの一点を探しに行く、一層困難なタスクを行う。生成 AI に対しては拡散モデルなどが導入されているが、省略した。今特に注目されるのは統計的自然言語処理アルゴリズムとしての大規模言語モデル LLM であろう。LLM はあらゆる単語（正確にはトークン）を高次元空間のベクトルとして埋め込んだものである。LLM は大量の文字データを読み込みながら訓練しており、ベクトル間の演算として単語相互の意味的関係の対応付けを可能にしているように見える。

AI 主導のデジタル化は教育の分野でも強引に推し進められている。政府文科省は、子供のいじめや不登校問題、学力向上の課題、先生の働き方等々の、学校に集中する諸問題を、

「個別最適化された学び」を旗印に、生徒一人にデジタル端末の環境整備と、AIを柱にした「インテリジェント教育システム」で切り抜けようとしている。その実験場に経済産業省の「未来の教室」プロジェクトに乗って多くの民間企業が参画している。教育のデジタル化推進は欧米への追随であるが、欧米の国々のなかでは、既に、デジタル化・AI化推進に疑問が投げかけられて、見直す動きも出ている。この問題に対する UNESCO 報告書を読む意義が強調された。

最後に講師は、AI化が、個々の人間の身体的能力の拡張や、時間・空間の制約を超えて各々の能力を活用しあえるネットワーク環境の外延を目指すことの反面で、内面性（精神性）の希薄化、或いは内面の歪みが進んでいくのかもしれないことを指摘して、これは人間の能力拡張を目指す技術が抱える本質的矛盾であろうか、と疑問形で講演を閉じた。

議論に移って、参加者から、実際に LLM を試す意図で原発やエネルギー問題を含む専門的内容の質問をしてみたところ、要点のよく押さえられた返答を返してきたので、文書作りの第一段階として使えるのではないかと感触を得たこと、また別の参加者からは、ここまで AI の普及が進んだ今、これを全面的に拒絶するのは難しいので、危険性をよく理解しながら上手に付き合っていく、という柔軟な態度が望ましいのではないか、との意見が述べられた。また医師の仕事の場や物理化学の学問の分野でも、AI の影響が相当出ているが、今後更に自然科学自体が変容させられていくように感じる。病院や在宅での診察情報、学校や塾や家庭での学習記録など、膨大で緻密な個人データをどう管理していくのか、AI の作り出す言葉の「倫理性」への疑問などは依然として払拭されていないこと、大学の基礎教育において、レポートという形の課題を出しても、すぐに AI が回答文を作り上げてしまうことなど、基礎教育が成り立たなくなっていく、との指摘が続いた。

なお当日の講演資料は pdf ファイルで参加者に配布した。また後日 3 名の方からメールで追加の討論を頂いた。

（報告者：西垣 敏）

6. 例会等の案内

6-1 福岡核問題研究会

日 時：2025 年 4 月 26 日（土）10:00～12:00

様 式：オンライン開催（ZOOM 情報は下記の読書会と同じ）

話 題：「核・原子力情勢の俯瞰的分析―暗闇の中の光明を求めて―」

報告者：岡本良治氏

6-2 『日本の科学者』5月号 オンライン読書会

日 時：2025 年 5 月 12 日（月）14:00～16:30

内 容：『日本の科学者』5月号＜特集＞「環境型地域社会の構築に向けた取り組み」

6-3 『日本の科学者』6月号 オンライン読書会

日 時：2025 年 6 月 9 日（月）14:00～16:30

内 容：『日本の科学者』6月号＜特集＞「原発のない社会づくりのための検証と展望」

5月号及び6月号の読書会は、2～4の論文の報告が集まった場合に、オンラインで行うことにします。ZOOM アクセス情報は以下の通りです。

（ZOOM 情報）

<https://us04web.zoom.us/j/8151516469?pwd=N1dydmMxTk85eVRkenNxUFhJUE1YUT09>

ミーティング ID: 815 151 6469

パスワード: 3KsYt4